

—教師生活開始！—

初出勤の日。

職員室で自己紹介をし、一息つくまもなく1校時目から授業です👩🏫

マジで！？いきなり授業！？

いいの！？やっちゃって…

ものすごい緊張です。

緊張しながらも教室に入る…

ふな:おはよう！🌸

生徒:し～ん(無言)

ふな:👧👦(やばい…)

しばらくの沈黙の後、ある生徒が私を指さして一言。

だれ！？

👧👦 そうきたか！

ここで動揺してはいけない…

しかし、こんなシチュエーション、今までの人生で経験したことがない…

とりあえず平静を装わなければ…

これから君たちの国語総合を担当することになった船田です。

一同、し～ん(無言)

俺はどうすれば良いんだああ～🐶

なんて落ち込んでいる暇も泣いている暇もありません。

とりあえず、自己紹介でもしてみるか…

ふな:とりあえず、今日みんなと初めて会うし、お互いに自己紹介しようか！

しばらくの沈黙の後、さっき私を指さして「だれ！？」といった生徒が、

やだ。

👧👦 そうきたか！

この時点で本気で泣きたくなった私。

ぬ〜泣くわけにはいかない！

ふな:お互いにこれから一緒にやっていくわけだしさ、やろうよ🙏

生徒:じゃあやってあげてもいいよ。

👉 そうきたか！

なぜ上から目線！？

ここで怒っても仕方ないので、感情を抑え、

ふな:じゃあお願いね。🙏

ということで、私と生徒と、お互いに自己紹介をしました。

とりあえず、今日は初日だし、これで良いか・・・ということで、

自己紹介で終了。へこんだまま職員室に戻りました。

今週一週間はこんな感じになっちゃうんだろうな・・・

何とか生徒達とお互いに関係を築けるようにならないとまずい・・・

今まで塾や家庭教師はやってきていましたが、学校🏫のように大人数相手は初めてです。

しかも、5年ちょっと、🏢と向き合ってた仕事をしていた人間です。

しかし、今日からはもう会社員ではない！一応先生なのだ！

自分を切り替えなければ・・・

そんなことを思いつつ、初日を終わりました。

果たして教師としてやっていけるのか！？

この時点で相当不安になりました。🙏

不安と期待と、夢がとりあえずは叶った安堵感とを持ちつつ、教壇に立ち始めた私。

2日目、新たなクラスに行きます。

昨日のクラスよりもさわがしいな・・・と思いつつドアを開ける。

沈黙、そして刺さるような視線。

🙏 (ここでひるんではいけない！)

ふな:おはよう！

一同沈黙、そしてすぐまた元の喧騒・・・

無視かよ・・・※

ふな:席に着け！静かにしろ！

生徒:なんだおまえ？！

!! そうきたか！

ふな: 今日から国語表現を担当する船田だ。

生徒: ふ～ん。

!! 昨日のクラスと全く違う空気だ・・・

大丈夫かな・・・

なんて思っているところに、すごいあんちゃんが入ってきました。

髪は👑金髪リーゼント、スカジャンを着て虎巻のズボン(ダボダボの作業ズボン)をはいています。

履き物は🌨雪駄。雪駄🎌かたぎ・・・か？👉👈

サラリーマンから転身したばかりの私は、その姿を見て目が点でした。

そんな彼は私の所に肩で風を切って近づいてきます。

ヤバイ、やられる・・・👉👈

そんな私に向かって、彼はにらみつけながら

なんだてめえ👊

万事休す、どうすりゃいいんだ👉👈

たくさんの生徒が私とその生徒を見ています。

このままじゃヤバイ・・・

もうサラリーマンじゃない！教師なんだ！

と自分を奮い立たせ、思い切りにらみ返します。

誰に向かって口きいているんだこらあ！

今日からこのクラスの国語表現の担当だ！

とできる限り大きな声で怒鳴りつけました。

するとこの生徒は、

新しく来た先公か。俺もこのクラスだからよろしくな。

と言ってそのまま教室を出て行きました。

(おいおい！授業に来たんじゃないのかよ！)

ほっと一息、他のさわがしかった生徒達もいつの間にか静かに席に着いています。

サラリーマン時代に同じような目にあったら、間違いなく一目散に逃げていたでしょうね。

この世界でホントに生きていけるだろうか・・・

やりたくて仕方がなかった仕事。それが教師。
しかし、理想と現実は違う物。

折角手に入れたものをどうするのか。
そう考えたとき、

やるしかないでしょ！

と思うところが私らしい。(笑)

夢のない時代、夢を持てない若者、それらの若者達に自分の経験を、考えを少しでも伝えたい。
教師になったら絶対にやりたいことでした。
今まさにそれをやるべき時ではないか！

あの恐ろしいあんちゃん👹と真っ向から向き合おう！
そう決めました。

最初の授業で出会って以降、あの恐ろしいあんちゃん👹は肩で風を切って、にらみつけながら私に近づいてきます。

そのたびにこっちも負けじと凄んで見せます。👹

そんなことの繰り返しでした。

何日くらいこんなことをしていたでしょう・・・

ある日、いつものように彼が近づいてくるので、いつものように精一杯凄んで向かっていきました。👹

すると、

そんな怖い顔しないでくれよ。

と彼が言ってきます。

そしてうっすらと笑みを浮かべているのです。

何事か、と思いました。👹

彼は今までずっと私を**試していた**のです。

ちゃんと**向き合っ**てくれるかどうか。

いつも彼が近づいてくる時に、私は**逃げずに向かって**行きました。睨みながら👹(笑)

それが彼にとってはうれしかったようです。

逃げずに向き合ってくれる大人がいなかったのです。

人は見かけでその人を判断しがちです。私も例外ではありません。

彼の姿はどう見ても敬遠したくなる、そんな姿です。

そんな姿だから誰も近づいてこないと言ってしまうかもしれませんが、その姿格好も彼にとっては**自己アピール**なんです。

見て欲しいんです。注目して欲しいんです。注目してもらって、**相手してもらいたい**んです。

それから彼は笑顔で近づいてくるようになり、私にいろいろなことを話すようになりました。

私の言うこともきちんと理解し、聞いてくれるようになりました。

こんな怖そうな姿の彼も、寄りかかる場所を求めていたのだなと思うと、とても切なくなりました。

大人の責任、とても大きな物だな、と痛感しました。